

(株)長田工業所

溶接体験や職人の作業見学 町工場 テーマパークに

ネットに出資者募る

長田工業所(坂井) 来春「開園」へ



来年4月の事業開始を目指す「アイアン・プラネット」のロゴと小林社長。7日、坂井市春江町西長田の長田工業所。

計画では工場を、一つの惑星と仮定して「アイアン・プラネット」と名付けた。溶接時の面や防炎着は、宇宙服のようにも見えることに由来。職人が仕事をしている1階はそのままだと見学の場となる。約65平方メートルの階には玩具をはじめ、テーブル、いすなど工場製品を並べる。鉄の科学館に改修。毎週土曜には▽鉄板切断競争▽ネームプレート製作などのワークショップを、職人指導の下で開く。子どもたちへの生きた教育や、地域観光の充実にも貢献していきたい思いがある。

小林社長は「閉鎖的に映る工場を広く開放し、確かな技術を次世代に伝える場にした。モノづくりの楽しさを知

坂井市春江町西長田の溶接加工業、長田工業所(小林輝之社長)が、工場の一部を改装して家族連れをはじめ、市民に開放し、溶接体験を楽しくしてもらおうというテーマパーク化を計画。8日からインターネットを通じて小口の資金を集めるクラウドファンディングサイト「zenmonno(ゼンモノ)」で、賛同者から資金を募って来年4月の事業開始を目指す。小林社長(38)は高度な技術を伝承する一方で、業界の後継者不足の解消につなげる、新たな収益事業にも発展させたいと意気込んでいる。

(山内弘司)

った子どもたちのアイデアが、自社製品を生み出すきっかけにもなっていけば」と話す。

「zenmonno」は町工場のモノづくり支援に特化したサイト。計画は先行公開されており、ボランティアスタッフとして8人が協力の意思を示している。資金調達の目標額は30万円。調達期間は12月17日までと設定した。ワークショップ参加者のトイレ、更衣室の整備に充てる予定。支援は千円からで、額に応じて溶接製品やワークショップ招待券などの謝礼を用意している。